



安全報告書 2025

索道事業



街にいろどりを。人にときめきを。



NIHONDAIRA
ROPEWAY

1. ごあいさつ	2
2. 安全方針と安全行動規範	3
2－1. 安全方針	3
2－2. 安全行動規範	3
3. 安全管理体制	4
3－1. 輸送の安全確保に向けた体制	4
3－2. 安全管理のためのPDCAサイクル	5
4. 2025年度 事故・障害等に関するご報告	1 4
4－1. 事故発生件数等	14
5. 安全確保のための取組	1 4
5－1. 安全設備と健康管理	15
5－2. 安全運行を支える人財	16
5－3. 係員に対する教育訓練	17
5－4. 防災・防犯、その他の対策	18
6. お客様・地域の皆様へのご協力をお願い	2 1
6－1. ロープウェイ乗車時のお願い	21
6－2. 不審者・不審物について	22
6－3. A E D（自動体外式除細動器）について	22
6－4. 事故・災害等発生時の運行について	23
7. お客様・地域の皆様とのコミュニケーション	2 4

1. ごあいさつ

安全・安心・快適のあくなき追求



代表取締役社長

川井 敏行

日頃より、静岡鉄道ならびに静鉄グループにご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。また、地域の皆様におかれましては、鉄道事業運営に格別なるご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年度は、サステナブルな企業の実現に向け、様々な取り組みを実施しております。各種コラボキャンペーンの実施、静岡県草薙総合運動場 硬式野球場ネーミングライツの取得など地域活性化および沿線の賑わい創出を目的とした取組を実施してまいりました。今後も社会課題や環境課題の解決に取り組み、地域の持続的な発展、成長に貢献してまいります。

このほか、当社グループは長期経営構想で掲げる「グループと地域社会のサステナビリティの実現（SOCIAL GOOD COMPANY）」に向け、2026年度を初年度とする3ヵ年の「中期経営計画2028」を策定いたしました。2026年度においては、「中期経営計画2028」の達成に向けて全力で取り組んでまいります。

当社索道事業におきましては、より一層安全への意識を高め、日々業務に取り組んでおります。輸送の安全確保に関する基本方針である「安全方針」や「安全行動規範」のもと、社員一丸となって安全輸送に注力し、法令や規程の遵守、自然災害へ備えております。そして、輸送の安全を確保することを最大の使命と考え、日々の業務において継続的改善によるスパイラルアップを図り、安全対策に努めております。

2025年度は、大規模地震に備え避難誘導マニュアルに基づく実践的な対応訓練を実施し、搬器回収や旅客避難の手順、役割分担を精緻に確認しました。また、最新の防災規定に基づく南海トラフ地震臨時情報への対応訓練を実施し、ICTツールによる情報の可視化と共有を推進し、進捗管理の迅速化と適正化を図るなど、異常時に備えた訓練と継続的な改善を積み重ねております。

なお、本報告書は鉄道事業法第19条の4に基づき、2025年度に実施いたしました安全重点施策、輸送の安全確保のために取り組んだ施策につきまして、皆様に広くご紹介し、安全輸送に役立てていくものであります。

今後につきましても、お客様からより信頼される鉄道事業者となるよう努めてまいります。内容につきまして、お気づきの点がございましたら、是非ご意見・ご感想をお寄せください。

2. 安全方針と安全行動規範

静鉄グループは、交通運輸事業だけでなく、すべての事業において「安全・安心・快適のあくなき追求」を経営理念としております。

索道事業では、2006年10月に「索道安全管理規程」を定め、輸送の安全を確保するための基本的な姿勢を示した「安全方針」、その行動の基本となる規範を示した「安全行動規範」を策定し、索道事業に従事する全社員が一丸となって輸送の安全を確保するための取組を行っております。

2-1. 安全方針

- ◆「輸送の安全確保」は鉄道事業の最大の使命であり、お客様に対する最大の責務である。
- ◆常に輸送の安全性向上に努め、法令・規則を理解し、それを従業員一人ひとりが確実に遵守・励行する。
- ◆組織一体となって、安全確保に不断の努力を傾注し、お客様の信頼に応えるとともに、地域・社会の発展に貢献する。

2-2. 安全行動規範

- (1) 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規定をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- (4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- (5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと。

「安全方針」「安全行動規範」は、点呼時や朝礼の際に定期的に唱和することにより周知徹底を図っています。また、職場に掲示するだけでなく、常に携行できるようカードを作成し、全社員に配布することで安全最優先の風土醸成に努めております。

安全方針

「輸送の安全確保」は鉄道事業の最大の使命であり、お客様に対する最大の責務である。

常に輸送の安全性向上に努め、法令・規則を理解し、それを従業員一人ひとりが確実に遵守・励行する。

組織一体となって、安全確保に不断の努力を傾注し、お客様の信頼に応えるとともに、地域・社会の発展に貢献する。

静岡鉄道株式会社
取締役社長 川井 敏行

安全行動規範

- (1) 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規定をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- (4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- (5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと。

携帯用カード

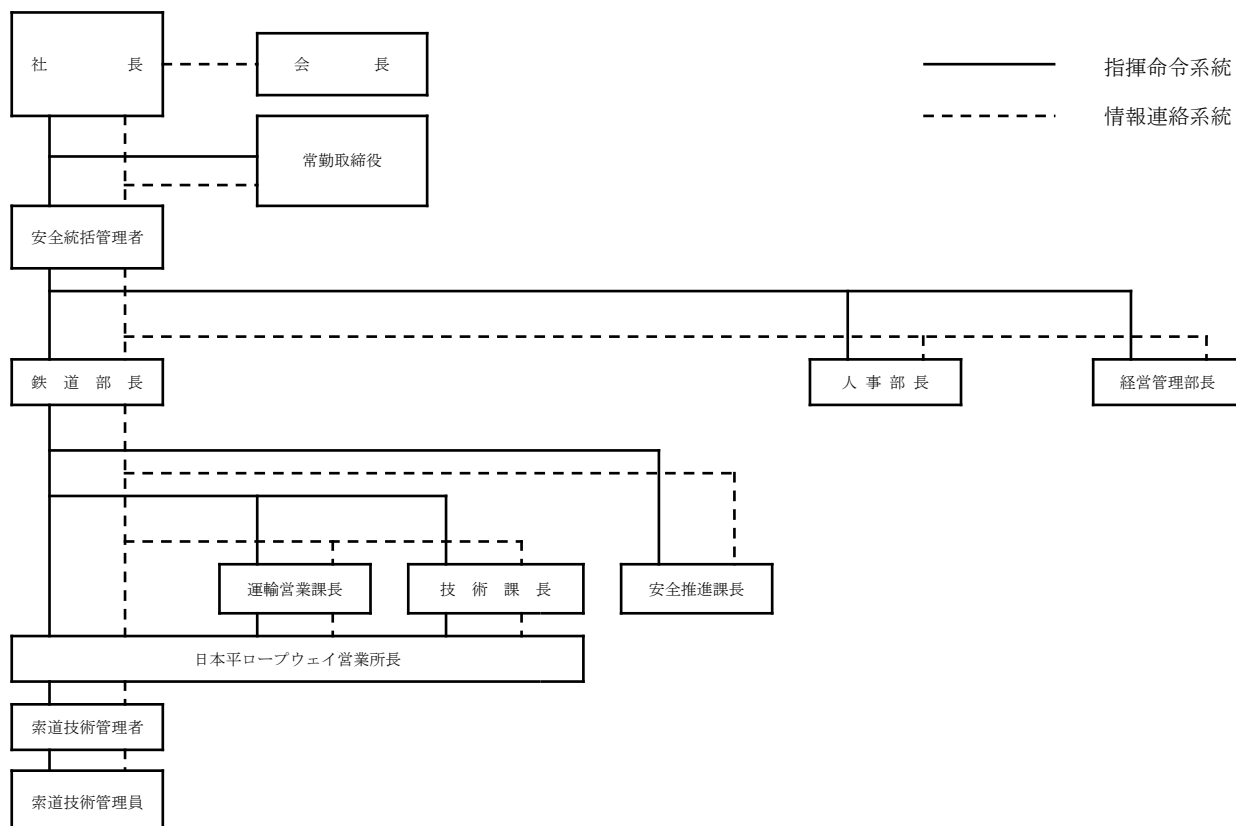
3. 安全管理制度

当社は、2006年に改正された鉄道事業法に基づき「索道安全管理規程」を制定しております。索道安全管理規程では、社長を最高責任者として各管理者の責任を明確にした上で各種施策を実行するとともに、その検証と改善を行うことで、安全性向上のためのPDCAサイクルを確実に実行し、輸送の安全水準の維持および向上に努めております。

3-1. 輸送の安全確保に向けた体制

社長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。
安全統括管理者	輸送の安全確保に関する業務を統括する。
鉄道部長	安全統括管理者を補佐する。
日本平RW営業所長	安全統括管理者の指揮の下、索道事業の輸送に関する業務を行なう等、安全統括管理者を補佐する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他の技術上および教育訓練等の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行う業務を補助する。
経営管理部長	輸送の安全確保に必要な設備投資、財務に関する事項を統括する。
人事部長	輸送の安全確保に必要な要員に関する事項を統括する。
安全推進課長	安全統括管理者の指揮の下、内部監査、事故防止施策の推進に関する事項を統括する。

安全管理体制图



3-2. 安全管理のためのPDCAサイクル

輸送の安全を確保するためには安全管理体制にPDCAサイクルを組み込み、継続的に見直し・改善を図ることが重要となります。PDCAサイクルとは「計画を立て、それを実行し、そして自らの取組をチェックし、見直しを行う」ことであり、当社では、その考えに基づき各種取組を行っております。

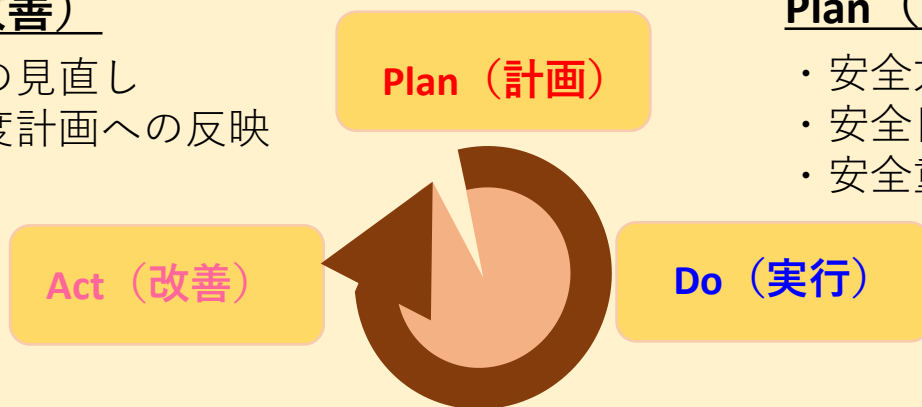
■ PDCAサイクル

Act（改善）

- ・ 計画の見直し
- ・ 次年度計画への反映

Plan（計画）

- ・ 安全方針
- ・ 安全目標
- ・ 安全重点施策



Check（確認）

- ・ 内部監査の実施
- ・ 安全マネジメント会議の実施
- ・ 取組の評価・振り返り

Do（実行）

- ・ 計画の実行
- ・ 取組の実施

（1）安全目標・安全重点施策（2025年度）



安全方針に基づき、輸送の安全を確保するため、安全目標および安全重点施策を策定しております。2025年度は、以下の内容について、教育・訓練や施設の整備を実施いたしました。

■ 安全目標（2025年度）

運転無事故の完遂

安全目標を達成するため、様々な安全性向上施策に取り組んでおります。その結果、2025年度も運転無事故を達成することができました。

■ 安全重点施策（2025年度）

安全目標を達成するための具体的な取組計画を安全重点施策として定めております。

① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

1. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

② 様々な状況における対応方の理解向上

1. 旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練
2. 南海トラフ地震臨時情報判定結果ごとの対応方確認

③ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

1. ヒヤリ・ハット総報告件数30件
2. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

④ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現

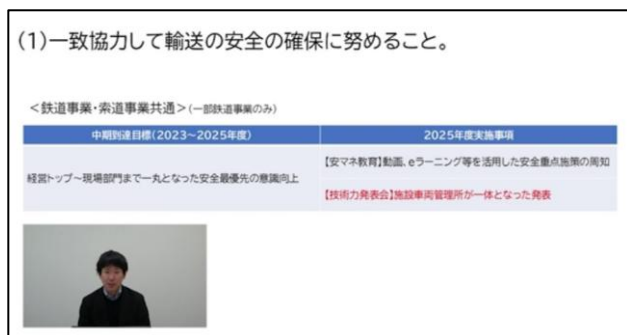
1. デジタル傾度計の設置
2. 2号柱土砂崩れ箇所補修工事
3. 久能山駅舎耐震補強工事



① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

1. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

安全重点施策は、鉄道部全社員で内容の共有を図るために解説動画を作成し、社内で共有をしています。さらに、eラーニングの教材を作成し、動画視聴と合わせて内容の周知徹底を図る取組を行っております。

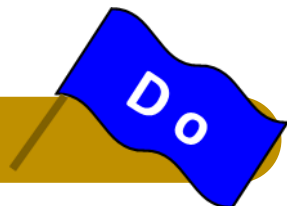


安全重点施策解説動画の様子



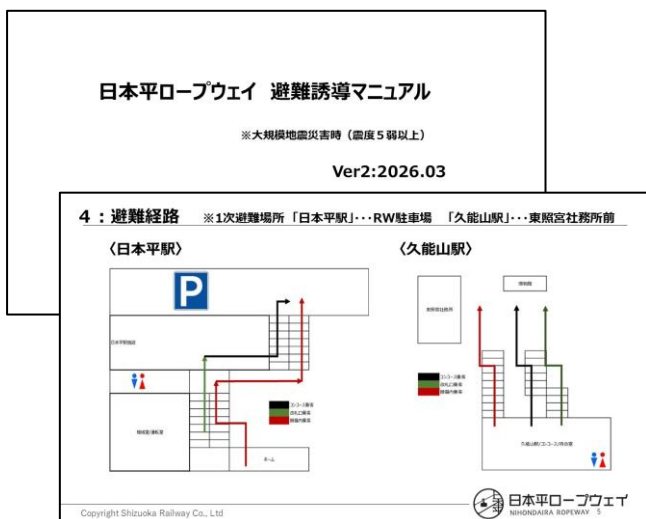
eラーニングの画面

② 様々な状況における対応方の理解向上



1. 旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練

大規模地震発生に備え、避難誘導マニュアルに基づく実践的な対応訓練を実施しました。訓練では、緊急停止した搬器の回収や実際の旅客避難誘導の手順を確認し、従業員の役割や動線を確認しました。旅客誘導と報告の並行実施等、実地での動きを確認できた一方、連絡網の混線といった課題も明確になったため、継続してその精査を進めることで更なる安全体制の強化を図ってまいります。



避難誘導マニュアル



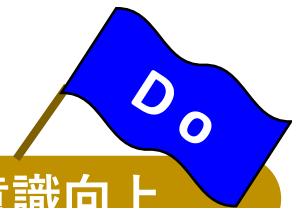
避難誘導の様子

2. 南海トラフ地震臨時情報判定結果ごとの対応方確認

南海トラフ地震臨時地震臨時情報の発令から発災までの対応について、2025年4月に改訂した鉄道地震防災規定に基づき訓練を実施しました。ZoomやLINE WORKS等のコミュニケーションツールを活用して情報の見える化と共有を行い、進捗状況の把握・確認を図りました。



対応訓練の様子



③ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

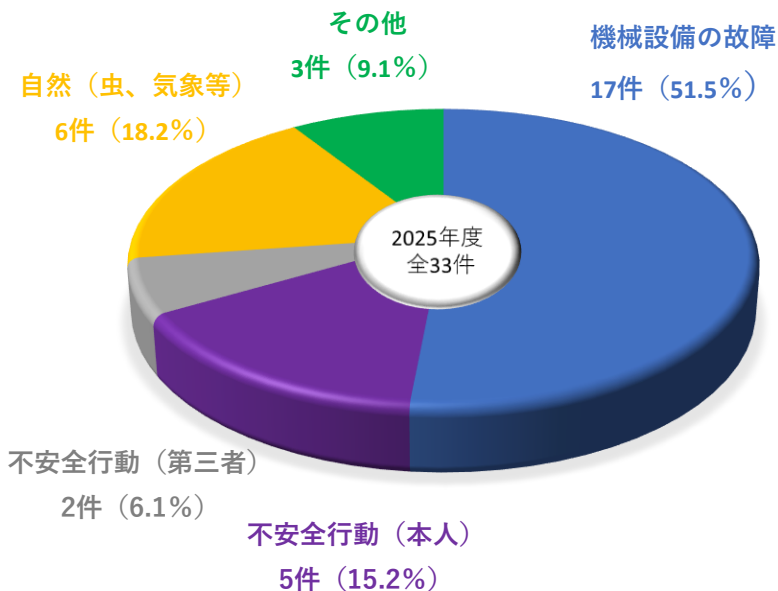
1. 有益なヒヤリ・ハット情報の収集

◆ 総報告件数 年30件以上

ヒヤリ・ハットとは、重大な事故や災害に直結しかねないような事例の認知を指します。今後起こり得る事故や災害を未然に防止するために、事例の認知・収集・対応が大切です。

当社ではヒヤリ・ハット情報の報告件数増加や質の向上を目的に、本社担当者が現場に行き、社員から直接ヒアリングを実施しております。また、報告案件への対応を事務所に掲示することで対応が見える化しております。

2025年度は全体を通して30件以上の報告を収集することを目標に取り組んでまいりました。結果として33件の報告を収集でき、ヒヤリ・ハットを元に改善できた事例が多くございました。2026年度も安全意識をより一層高く持ち、安全に向けた改善を継続してまいります。



2025年度ヒヤリ・ハット報告（原因別）

2. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

過去に実際に発生したヒヤリ・ハット事例やヒヤリ・ハットを報告する意義についてまとめた解説用教材を作成し、社内で共有しています。併せて、eラーニング教材も作成し、内容の周知徹底を図る取り組みを進めております。

ヒヤリ・ハットの理解度向上や「本人の不安全行動」といったマイナスなイメージを払拭し、前向きに報告しやすい風土を醸成することを目的としています。

ヒヤリ・ハット事例の収集は、事故や災害の未然防止に役立つほか、社員一人ひとりの安全意識の向上にもつながります。

2026年度においても、さらなる報告数の増加に向けて、継続的に周知活動を実施してまいります。



作成した教材

◆ ヒヤリ・ハット改善事例

集められたヒヤリ・ハット事例のうち、実際に改善につなげた事例を紹介します。

(ヒヤリ・ハット) 社員駐車場に外灯がなく、夜間の視認性が低いため転倒の危険がある。

改善後

人感センサー式の外灯を設置し、夜間においても視認性を確保しました。



従業員駐車場（昼間）



設置した外灯（昼間）



夜間の様子（夜間）



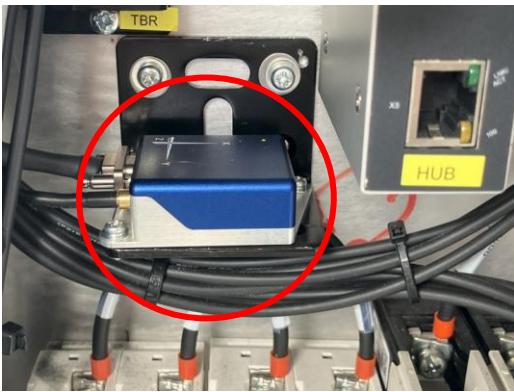
外灯点灯時（夜間）

当社では今後もヒヤリ・ハット事例の認知・収集・対応を継続し、社員・お客様が共に安心して利用できる環境づくりに努めてまいります。

④ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現

1. デジタル傾度計の設置

搬器内の傾斜計をアナログ式からデジタル式へ更新いたしました。これまでは搬器の揺れへの追従が難しく、振れ幅の正確な把握に課題がありましたが、デジタル化により最大・最小数値をモニターで即座に確認できるようになりました。異常時には警報で知らせる機能も備わっており、より確実に迅速な状況把握が可能となっています。



傾度計センサー（ジャイロセンサー）



搬器内モニター部分 表示状態

2. 2号柱土砂崩れ箇所補修工事

2023年度5月の降雨で土砂崩れが発生したことから、当該土砂崩れの復旧工事を実施いたしました。工事については2025年6月に完了しました。



法面の復旧状況（施工中）



法面復旧工事完了

3. 久能山駅舎耐震補強工事設計

久能山駅舎耐震補強工事を実施するための具体的な設計内容を固め、成果品の精度が確認できたことで、次段階である実際の工事へと着工できる準備が整いました。2026年度内での工事竣工を予定しており、駅舎の安全性を高め、より安心してご利用いただける施設へと整備を進めてまいります。



日本平ロープウェイ 久能山駅ホーム下

(2) 安全マネジメント推進委員会

Check

この会議は、安全統括管理者を中心とした各管理者で構成され、事故や故障に関する報告と教育訓練の実施状況、ヒヤリ・ハット情報やその対策等、安全に関する事故の共有と安全管理体制の見直しを目的として毎月1回、経営トップまで参加して実施しております。



会議の様子

(3) 静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会

Check

運輸安全マネジメント体制をグループ横断的に構築していくことを目的に2006年から開催しているもので、2025年度は第20回目の開催となりました。本年度も静岡鉄道株式会社の会議室にて対面での開催となりました。

当日は、西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部安全推進部次長 井関様より「福知山線列車事故を原点とした安全性向上の取り組み」と題し、組織全体で安全を確保する仕組みや、安全最優先の企業風土の構築等についてご講演をいただきました。また、グループ各社の安全報告書から前年度の取組内容について、安全統括管理者より発表があり、安全に関する課題やその対応策について、グループ内で活発な情報共有と意見交換が行われました。



会議の様子

(4) 内部監査

Check

「運輸安全マネジメント」における取り組みが適切に実行できているかを確認するため毎年1回内部監査を行っております。

監査項目は、国土交通省が策定した「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン」および当社の「鉄道・索道 安全管理規程」とし、監査対象は社長および安全統括管理者、その他各管理者です。内部監査では、各管理者が輸送の安全確保に関する業務にどのように関与し、安全管理体制の構築・改善に取り組んでいるかを確認しており、効果的な取組は評価し、改善が必要であれば助言をするなど、継続的改善に努めております。

(5) 社長および安全統括管理者巡視

Check

社長および安全統括管理者は、国土交通省が定めた年末年始輸送安全総点検期間（12月10日～1月10日）やその他機会において、現業職場を巡視し、輸送の安全確保への取り組み状況や実作業の確認、現業職員との意見交換を行い、綿密に安全管理体制の確認を行っております。



社長巡視



安全統括管理者巡視

（６）安全目標・安全重点施策（２０２６年度）

２０２６年２月に開催された「安全マネジメント推進委員会」において、２０２５年度安全目標および安全重点施策について振り返りを行いました。その結果、２０２６年度の安全目標は「運転無事故の完遂」とし、安全重点施策は基本理念と中期到達目標を整理したうえで選定しました。基本理念は安全行動規範の内容と一致させ、その理念に合った２０２６年度に到達すべき目標を中期到達目標としています。

■ 安全目標

運転無事故の完遂

■ 安全重点施策

基本理念	中期到達目標 (2026～2028)	2026年度実施事項
一致協力して輸送の安全の確保に努めること	経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	・ 運輸安全マネジメント教育体系の構築
常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること	社外事例を活用した安全性向上/重大事象の多面的分析	・ ヒューマンファクターの観点を取り入れた静鉄版分析・対策策定の手引きの作成・周知
事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応方の理解向上	・ 最深部における応急下降訓練・対応基準の策定 ・ 大規模災害時における安全確保の精度向上：旅客避難誘導訓練の継続 ・ 搬器下ウエイト設置訓練
情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること	安全に関する情報共有の効率化	・ 確認会話教育の実施
輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	・ 駐車場南面崩落箇所現状把握及び補修箇所調査 ・ 久能山駅舎耐震補強工事 ・ 2号柱付近ルート一部崩落箇所の修復 ・ 受電設備更新 ・ 定期整備（平衡索滑車・走行装置・制御ユニット）

２０２６年度も、目標達成に向け社員一丸となって安全確保に努めてまいります。

4. 2025年度 事故・障害等に関するご報告

4-1. 事故発生件数等

2025年度の事故等の発生を以下の通り報告します。

①索道運転事故

該当事象なし

②インシデント（事故の兆候）

該当事象なし

③行政指導等

該当事象なし

・索道運転事故

国土交通省の鉄道事故等報告規則（省令）に基づく、索条切断事故、搬器落下事故、搬器衝突事故、搬器火災事故、索道人身傷害事故をいいます。

・インシデント

索道運転事故が発生する恐れのあるものをいいます。

5. 安全確保のための取組

5-1. 安全設備と健康管理

安全で快適なロープウェイの運行を支えるために、ソフト・ハード両面から輸送の安全を確保するための取組を行っております。

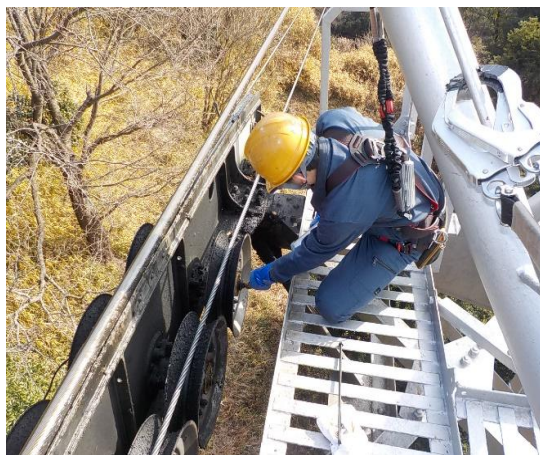
①施設の安全対策

日本平駅および久能山駅のホームには柵を設け、転落防止の対策を図っております。また、機器および駅設備の状況を遠方からモニタリングできる設備も整えております。



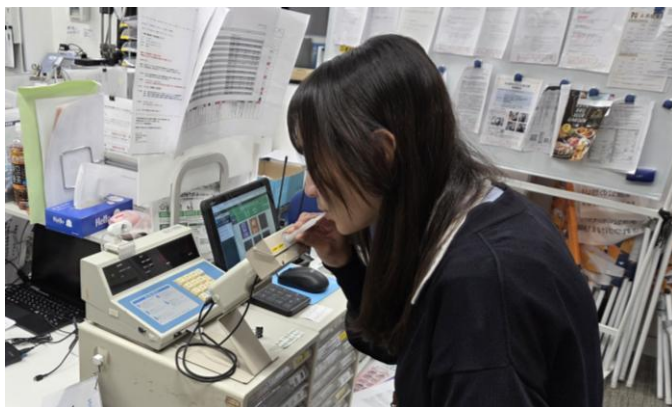
②定期検査・保守について

お客様に安全に、そして安心してご利用いただくため、関係法令および索道整備細則に基づき、始業点検、1ヶ月検査、3ヶ月検査、一年検査等計画的な点検、保守作業を行い安全確保に努めております。



③健康管理

出勤点呼時に監督者による健康状態の確認を行うほか、カメラ付き装置によるアルコールチェックを係員全員が実施しており、健康診断も定期的に受診しております。



アルコールチェックの様子

5-2. 安全運行を支える人財

①営業・ガイド係

日本平駅・久能山駅では切符を販売しているほか、搬器へのスムーズな乗降を促すためにガイドによる誘導を行っております。多客時にお客様をできる限りお待たせしないよう、迅速な案内に努めております。



②技術係

日本平と久能山駅間の約1 kmは3本の鉄塔とロープ（支索）で結ばれております。点検は約50 mの鉄塔やゴンドラの上で行うものもあり、危険を伴います。そのため、係員は作業前に念入りに準備を行うほか、日頃も教育により索道保守技術や安全対策について、知識や技能の向上に努めております。



5-3. 係員に対する教育訓練

輸送の安全を確保する上で、知識技能の維持および向上は不可欠であるため、当社では年間教育訓練計画に沿って、係員に対する教育・訓練を定期的実施しております。

■ 異常時訓練

◆ 予備原動機巻き上げ訓練

電力の供給がストップした場合を想定し、ディーゼル動力を使用してゴンドラを両端駅に収容する予備原動機巻き上げ訓練を3ヶ月に1回行っております。



予備原動機の巻き上げを行う様子

5-4. 防災・防犯、その他の対策

①風向風速計

輸送の安全を確保するため運転室内には風速計などの機器を設置して常時監視しており、インターネットの活用により雷雲の接近等の監視も行っております。なお、当社では風速が15 m/秒以上となった場合には運転を見合わせます。



風向風速計

②監視カメラ

有事の際、状況を迅速に把握し、対応するために監視カメラを設置しております。このカメラはネットワークへ接続しているため、離れた場所からでも現場の状況を確認することができます。



監視カメラ（日本平駅）

③ドローン点検

中部電力パワーグリッド株式会社様のドローン点検サービスを活用し、通信線の点検を実施しております。

また、2023年度より当社従業員がドローンの運転資格を取得し、大雨や台風発生後等の施設・設備点検を実施しております。ロープウェイの安全性向上はもちろん、従業員の作業時における安全確保にもつながっております。

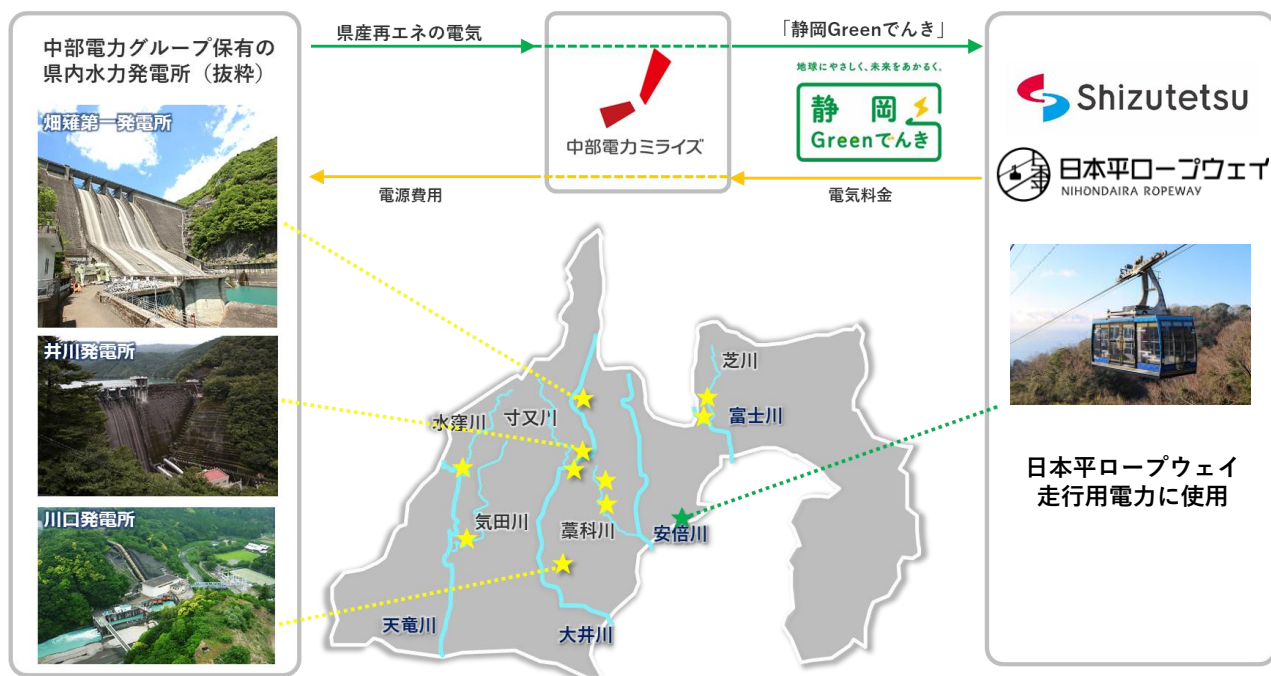


ドローン点検の様子

④省エネ・快適性

■ 再生可能エネルギー 100%で運行

当社は、2023年度より静岡県内の索道事業で初めて、静岡県産のCO₂排出量ゼロの電気「静岡Greenでんき」100%による運行を開始しました。「静岡Greenでんき」は、中部電力ミライズ(株)のご協力により、県内に立地する大井川・天竜川・富士川・安倍川の各水系にある水力発電所の再生可能エネルギー由来の環境価値を活用した電気です。当社では、鉄道事業においても県内で初めて「静岡Greenでんき」を導入しており、現在、A3009号(2020年度導入)とA3011号(2022年度導入)、A3012号(2023年度導入)、A3003号(2025年度導入)が運行しております。当社は、今後も引き続き、グループ全体で再生可能エネルギーへのシフトを積極的に推進することで、環境負荷低減につなげていきたいと考えております。



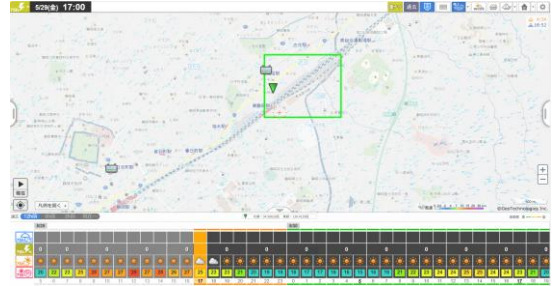
地球にやさしく、未来をあかるく。



⑤ 気象予報

■ 気象予報アプリ「Amatellus® Mobile」

より正確で迅速な気象情報の把握により、適切な運行判断と安全対策を実施することを目的として、気象予報アプリ「Amatellus® Mobile」を活用しています。
1 kmメッシュごとの詳細な天気予報をリアルタイムで表示することが可能で、強風や落雷などの気象変化を細かく把握し、運行や作業の判断に役立てています。



⑥ 安全ニュースの発行

安全に関する取り組みをまとめた「安全ニュース」を定期的に発行しております。毎月開催される運輸安全マネジメント推進委員会における社長の発言やヒヤリ・ハット事例の紹介・募集などを掲載しております。鉄道事業の社員だけでなく、全社員が閲覧可能なグループウェアに掲載することで、会社全体で安全意識の高揚に努めております。

安全ニュース

企画・編集 2025年4月発行 鉄道部 安全推進課

運輸安全マネジメント推進委員会 社長訓示(一部抜粋)

1月

年末年始輸送安全総点検が無事終了し、確実な実施に感謝する。寒い時期の夜間作業は安全に配慮するとともに、いかにして暖を取るかが重要なポイントである。I-reporter(点検・報告業務のシステム化)※1の操作は手袋を外す必要があり大変なため、音声入力の活用を含めた改善を検討してほしい。

車両故障では他社にも同様の事例があり、今後の不具合に備えた情報共有のネットワークづくりも有効と考える。年度末の工事が続く中、安全第一で作業を進めていただくようお願いする。

2月

日本経済新聞で、JR東日本が2026年3月に民営化後初の運賃改定を検討しているとの記事があった。老朽化したインフラの維持が目的であり、人口減少や作業員の高齢化・人手不足が背景にある。今後はDXの活用がより重要になる。点検作業の精度が老朽化対策の鍵であり、マンネリ化せず確実に行うことが求められる。設計ミスの発見事例からも、日常の丁寧な点検の重要性が分かる。

また中部運輸局の運輸安全マネジメント評価も好機と捉え、しっかり対応する。安全投資が決議されたことを踏まえ、年度末に向けて安全輸送の意識を高め、新年度を迎えたい。

3月

今年一年、安全・安心の実現に向けて全員が協力して取り組んでくれたことに感謝する。先日、10年ぶりに中部運輸局のマネジメント評価が実施された。みなさんのご尽力もあり、高評価を得ることができた。一方で、すべてが万全だったわけではなく、索道事業が運行不能となった場合の代替輸送の確保など課題も確認された。さまざまな事態を想定し、危機管理体制の構築する重要性を再認識した。PDCA活動も評価されたが、引き続き着実に実行していきたい。

I-reporterって何!?

※1 I-reporterの説明

I-reporterは、点検および報告業務の電子化を実現するシステムです。日頃使い慣れている紙やExcel帳票を、そのまま電子帳票として活用でき、これまで廃止が困難であった紙の手書き業務を電子化することにより、業務の効率化・品質向上・スピードアップおよびコスト削減を可能にしました。

I-reporterの画面

4月号ヒヤリハット紹介

2025年1,2,3月のヒヤリハット(事故の芽情報)の中から鉄道部内の投票により、ベストヒヤリハットを決定いたしました。

4月号のベストヒヤリハットは、「長沼下りでドア扱い時に車両外側で異臭を感じて、新清水到着後に付近を確認すると車床付近から異臭を認めたため運転指令に連絡し、車両交換を実施。点検の結果、空気圧縮機に不具合があった。」という内容でした。

以前にも同様の事象に対応した運転士の経験により、焦げ臭さの原因が空気圧縮機であると判断され、異常が起る前に対応することができました。安全に対する感度の高さが表れた、とても素晴らしい気づきだったと思います。

今後は、重大事故を未然に防ぐことを目的に、ヒヤリ・ハット事例の収集に取り組んでまいります。

2025年度 鉄道部 安全重点施策

2025年度の重点施策は、2024年度から項目を一部変更した4つの項目をピックアップいたしました。本年は以下の重点施策の下、運転無事故の完遂に努めて参ります。

基本理念	中期到達目標(2023~2025年度)	2025年度実施項目
(1)一致協力して輸送の安全の確保に努めること	経営トップ・現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	・動画、eラーニング等の活用(鉄道)施設車両管理所が一体となった技術発表会の実施
(3)常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること	社外事例を活用した安全性向上	・JR東日本総合研修センターでの安全体験研修
(5)事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応力の理解向上	・南海トラフ地震臨時情報判定結果ごとの対応力確認(鉄道)静岡鉄道所属全従業員の安全意識の向上を目的とした鉄道事業における安全教育の実施
(7)常に問題意識を持ち、必要な変更を行うこと	DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上	(鉄道)日報作業の電子化(索道)新たなDX化の検討
(8)輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	(索道)デジタル傾度計設置(索道)駐車場南側落石箇所対策検討(索道)久能山駅舎耐震補強工事設計

一部抜粋

安統管ディスカッション

現場従業員目線での安全に対する意見交換をする機会として、当社の安全統括管理者である三浦専務とディスカッションを実施しました。

今回は「他の従業員が挙げているヒヤリハットを自分事として取り入れられて勉強になる」、「技術職が不審者対応をする想定をしてもいいと思った」等、鉄道部が実施している安全に対する施策・部方針について建設的な意見が多く出ました。

次年度以降も、安統管や鉄道部長からの情報共有機会を積極的に設けるようにいたします。

令和6年度安全優良職員厚生労働大臣顕彰

運輸運輸営業所 坂口佳巳運転指令

【表彰要件】

- ・職長等としての実務経験10年以上
- ・過去5年以上、休業4日以上の災害が発生していない
- ・職務に必要な資格を有するとともに、能力向上教育等の各種安全衛生教育を十分に受講し、安全管理、作業指揮等の能力が発揮される
- ・安全管理に関する部下の指導教育又は安全管理に関する知識・技能の普及や継承に積極的に活動している

安全ニュース(2025年4月号)

6. お客様・地域の皆様へのご協力のお願い

ロープウェイが安全に運行するためには、お客様や地域の皆様のご協力が欠かせません。当社は、案内放送や掲示物でご利用時の注意をお願いしておりますが、皆様に安心してご乗車いただく為にも、安全の確保にご協力をお願いいたします。

6-1. ロープウェイ乗車時のお願い

■ 手すりには腰かけないでください。

ゴンドラに乗車する際にご利用いただく通路には手すりが設置されております。手すりを必要とされる方もおりますので、その上に腰かけることはおやめください。特に、お子様が腰かけた場合、手すりから転落し、怪我をする恐れもありますので絶対にやめてください。



手すり（日本平駅ホーム付近）

■ 危険物は持ち込まないでください。

他のお客様に危険をおよぼす物の持ち込みは禁止しております。

■ 乗車中、窓から手をだしたり、物を捨てないでください。

窓から手を出すことは大変危険ですのでおやめください。また、物の投棄はゴンドラの下を通行する方を負傷させる可能性があり、投棄した物が周辺の環境へ影響を及ぼすこともありますので絶対におやめください。

■ つり革にぶら下らないでください。

けがの原因や他のお客様のご迷惑となりますので、つり革にぶら下るのはおやめください。

■ 乗車中、手すりに上らないでください。

手すりに上ると、窓から落下する危険性が高まります。特に小さなお子様をお連れのお客様はご注意くださいようお願い申し上げます。

■ 異常時は係員の指示に従ってください。

停電や故障などでゴンドラが止まった場合は、係員の指示に従ってください。

■ その他

- ・ 飲酒酩酊等、公の秩序または善良の風俗に反するような行為があり、他のお客様に迷惑をお掛けするおそれのある場合には、ご乗車をお断りすることがあります。
- ・ ペットをお連れしての乗車をご希望の場合は、小型犬のみゲージ（頭部まで隠れるもの）のご用意があれば一緒にご乗車できます。（介助犬は一緒に乗車できます。）
- ・ ゴンドラ内は禁煙です。
- ・ 狭いゴンドラ内での携帯電話（スマートフォン）を使用した通話は周りのお客様のご迷惑となる場合があります。乗車時は電源を切るかマナーモードにするなどご配慮をお願いいたします。

6-2. 不審者・不審物について

■ 不審物・不審者を発見された時は、お近くの係員にお知らせください。

不審物発見時には次の3つの原則がありますのでご注意ください。

- ① 触れない
- ② 嗅がない
- ③ 動かさない

万が一不審物等を発見した時は、お近くの係員にすぐにお知らせください。

6-3. AED（自動体外式除細動器）について

■ 急病のお客様を発見されたときは、お近くの係員にお知らせください。

AED（自動体外式除細動器）は、日本平駅・久能山駅のほか、2016年度よりゴンドラ内にも設置しております。また、係員は消防署のご協力のもと普通救命講習を定期的に受講しております。



AED（久能山駅）



AED（日本平駅）



AED（ゴンドラ内）



普通救命講習受講の様子

6-4. 事故・災害等発生時の運行について

■ 運行情報をお知らせしております。

ホームページやSNSを使用して運行情報をお知らせしております。事故や故障、災害等により運休している時、または臨時ダイヤで運行している場合は運行情報を更新いたしますので、お出かけの際にはぜひご確認ください。

- ・ ホームページ：日本平ロープウェイ (<https://ropeway.shizutetsu.co.jp/>)



日本平ロープウェイ
ホームページ

運行情報はこちらです

日本平ロープウェイホームページ
※2026年6月時点

- ・ Facebook：日本平ロープウェイ (<https://www.facebook.com/zekkeifujisan>)



日本平ロープウェイ
Facebook



日本平ロープウェイFacebook

7. お客様・地域の皆様との コミュニケーション

■ 静鉄グループカスタマーハラスメントについて

「安全・安心・快適のあくなき追求」を経営理念として、お客様や社会と共に歩みながら、持続可能なサービスと価値の提供に努めております。こうした事業活動の中で、従業員とお客様の人権が互いに尊重され、従業員が安心してお客様へのサービスを維持・向上し提供できるよう、「カスタマーハラスメントに対する方針」を策定いたしました。お客様におかれましても、本方針の趣旨をご理解いただき、思いやりのあるご対応にご協力をお願いいたします。



静鉄グループポスター

安全報告書のご感想、
または安全への取組に関する
ご意見をお寄せください。

静岡鉄道株式会社 鉄道部 安全推進課

T E L (054) - 254 - 5137

F A X (054) - 273 - 0658

E -MAIL stktetsu@shizutetsu.co.jp